

弘南バスによる 乳幼児・小学校低学年向け MM 教育座学ツールの作成 ～紙芝居「リンゴちゃん バスでおでかけ」について～

大野悠貴（名古屋大学） 加藤尚徳（弘南バス株式会社） 高島亮太（株式会社玄） 宮田憲一（有限会社モック）

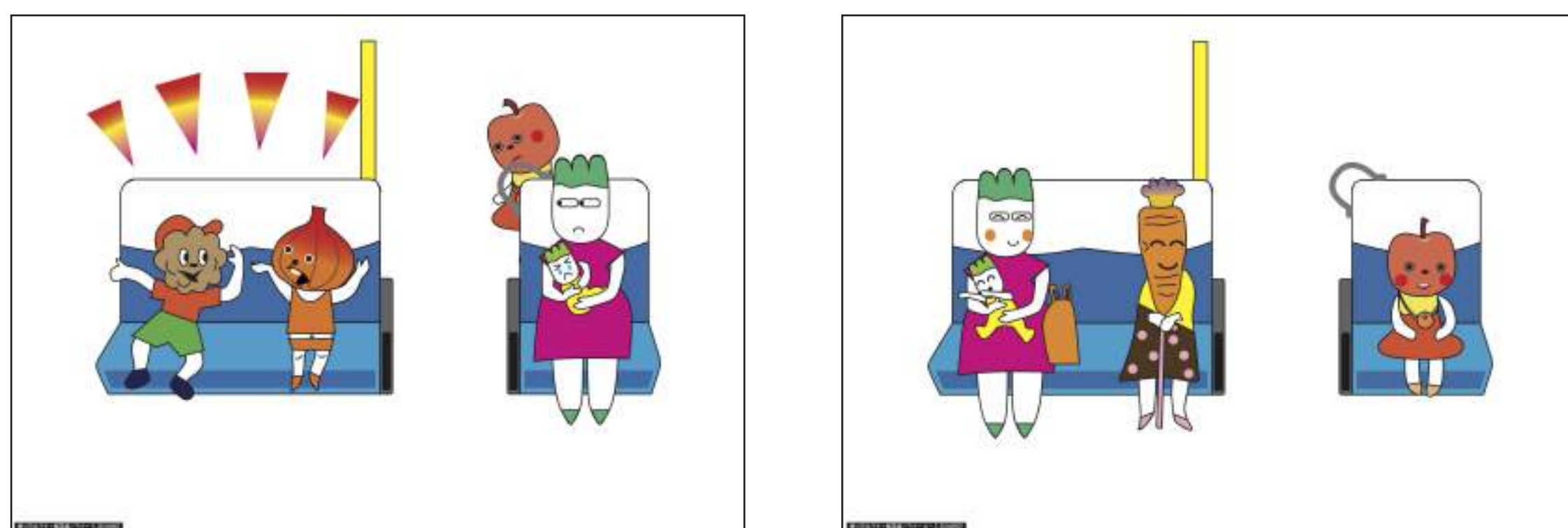
背景と目的

- ・弘南バスでは平成 27 年度から、地域の方々に向けて、バスを日々の暮らしに「プラスα＝ちょい足しする」ご提案をしていく『バスぷらすプロジェクト』を実施
- ・平成 28 年度からは子どもの成長過程に合わせた MM 教育プログラムの実践を始め、いくつかの座学プログラムを作成
- ・その中で、乳幼児から小学校低学年の子どもたちにバスの利用方法やマナーを学んでいただくため、紙芝居を用いたプログラムを作成した

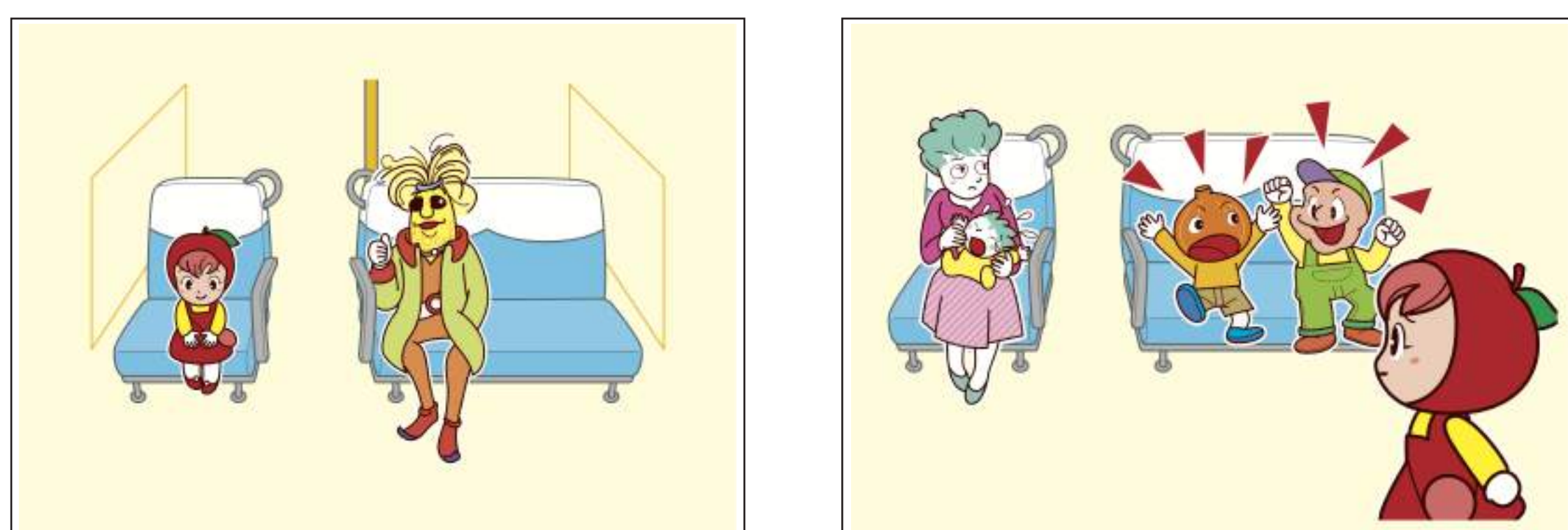
ツールの特徴

- ・紙芝居は、主人公の「リンゴちゃん」がバスに 1 人で乗って、おばあちゃんの家へ遊びに行くお話

特徴 1 試作版で得られた成果をフィードバック



試作版では、リンゴちゃんや乗客（白菜の親子）が座っている位置がページ毎に異なり、子どもたちの注意が逸れるだけでなく、走行中に移動しないというマナーにも矛盾していた



完成版では新たにキャラクターを追加し、リンゴちゃんの立ち位置を俯瞰的にすることで、試作版での問題を解消

特徴 2 子どもたちの特性等に合わせて内容変更が可能

年齢や実施場所、時間、授業での位置づけなどに合わせて、お話の長さを変更したり、伝えたい内容を変えたりと、紙芝居の構成を状況に応じて組み替えられるよう設計

小学校の授業で実施する場合（30 分フル版）



乳幼児を対象とする場合（10 分程度のマナー抜粋版）

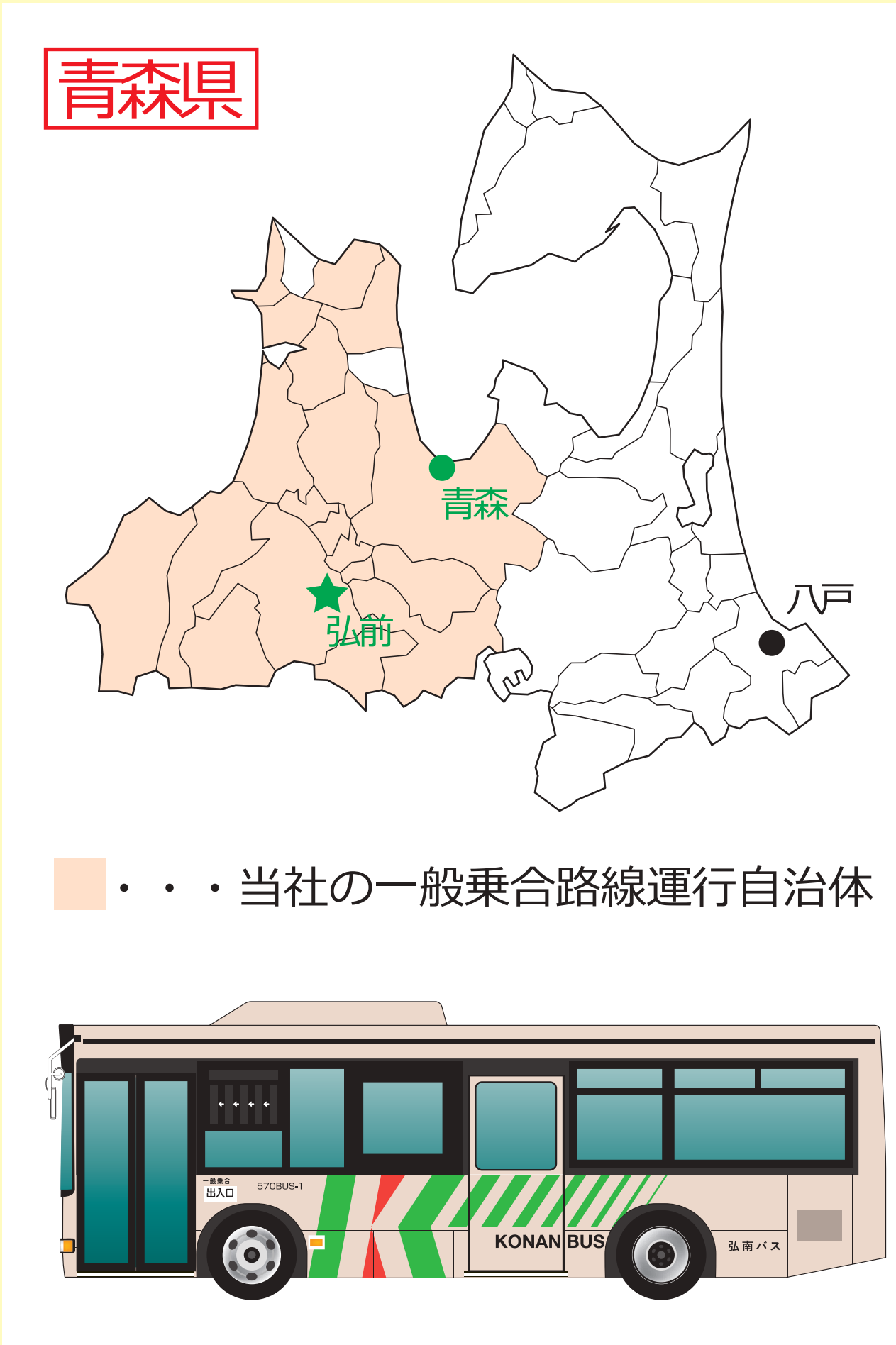


特徴 3 乗り方教室でのフリップとしても使用可能

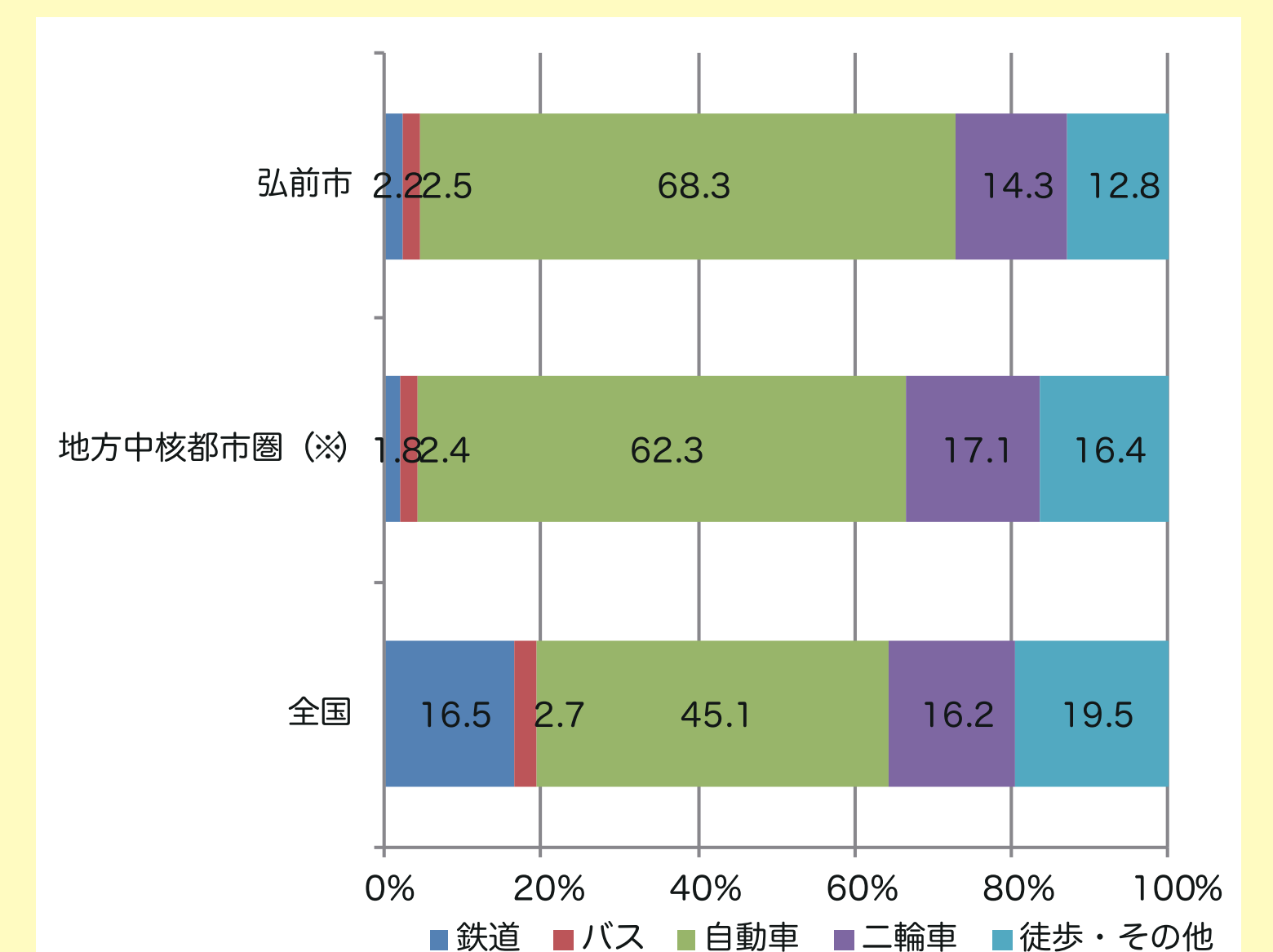


座学ツールとしてだけでなく、実車を用いた乗り方教室の際にフリップとしても使用可能。これまでの手書きフリップよりも適度に子どもたちの注意を引くことができ説明しやすくなった。

対象エリアの概要



弘前市人口 172,807 人
[平成 30 年 7 月 1 日時点]
典型的なクルマ社会であり、バスの利用機会が極端に少ない



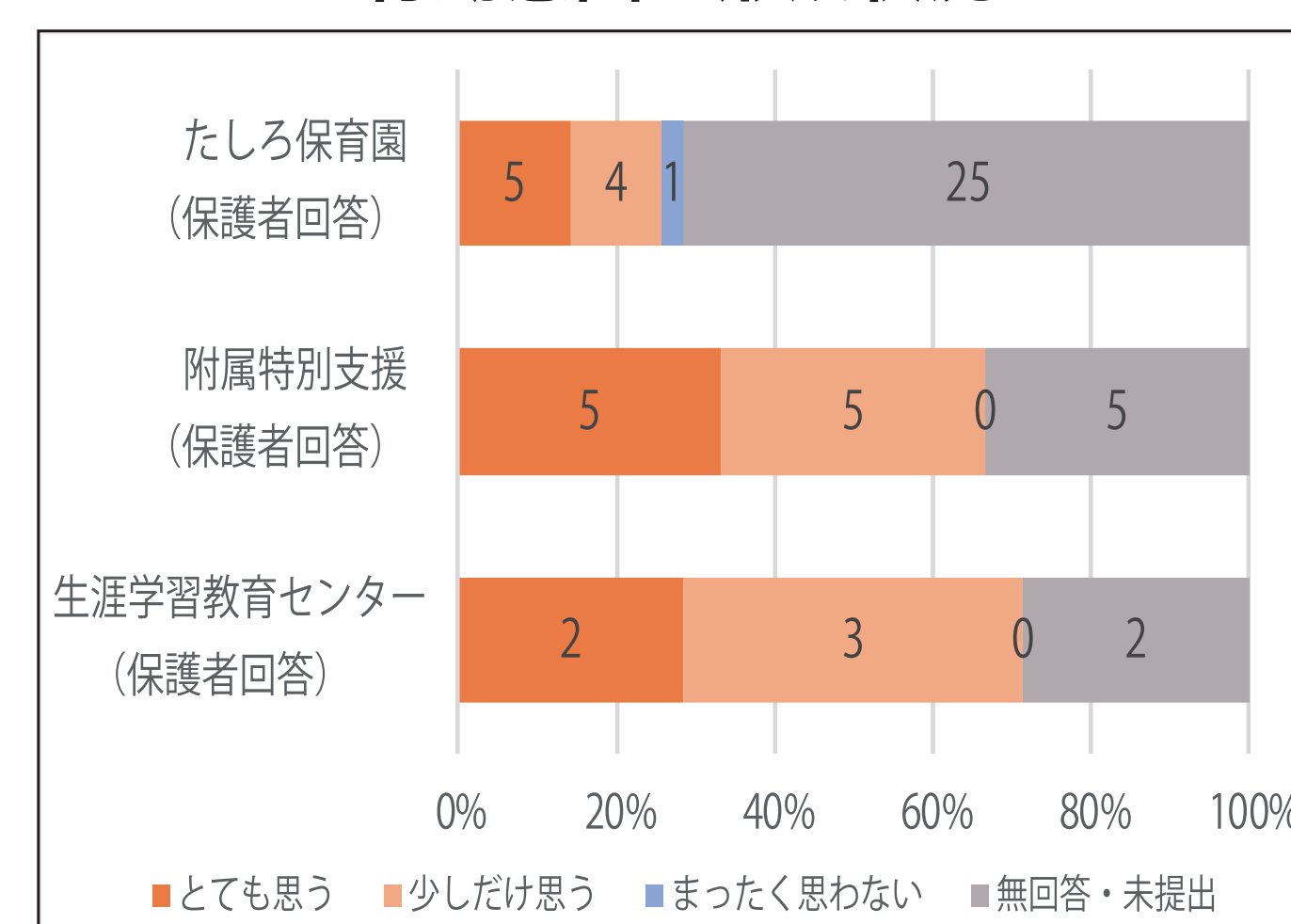
特徴 4 地元農産物をモチーフにしたキャラクター

- ・キャラクターデザインを含め紙芝居のデザインは、子ども向けのイラストデザインの経験が豊富なデザイナーに依頼
- ・子どもたちの注意が逸れないように配慮しつつ、リンゴをはじめとする地元農産物をモチーフにすることで、子どもたちが親しみやすいデザインとした

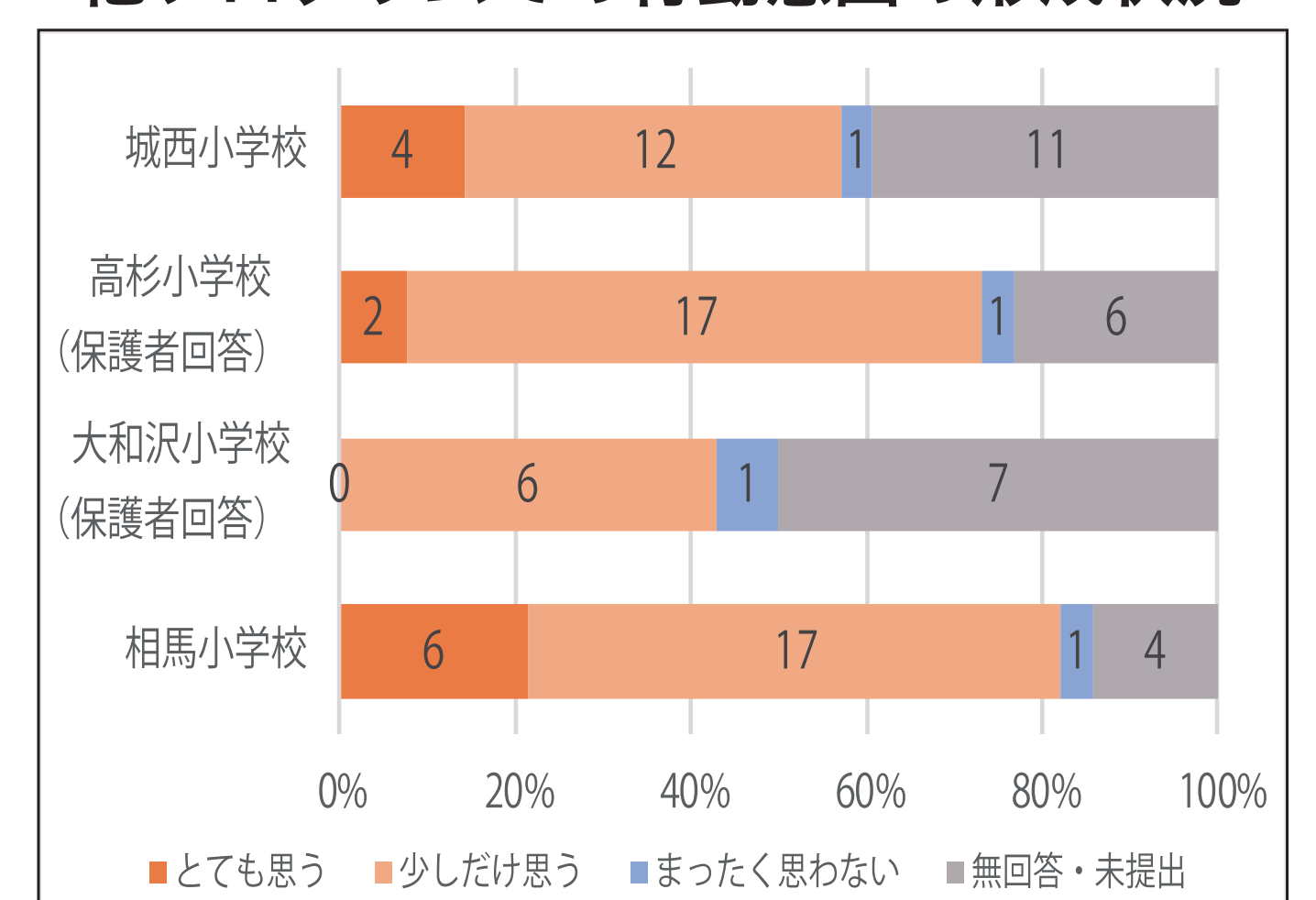
効果・応用可能性

- ・保護者に回答を依頼した事後アンケート調査において、子どもの意向として保育園（参加園児数 35 名：回収率 40%）で参加園児の 26%が、特別支援学校（参加生徒数 15 名：回収率 67%）で参加生徒の 67%が、保護者の意向として生涯学習講座（参加家族数 7 家族：回収率 71%）で参加家族の 71%が、バスを利用して外出したいと「思う」の側を回答している。
- ・保護者からは「わかりやすかった」という意見を自由回答で複数いただいたほか、出前講座実施先の教員やスタッフからも好評の声をいただいている。

行動意図の形成状況



他プログラムでの行動意図の形成状況



- ・平成 29 年度に弘南鉄道と共同で実施した出前講座の際には、本ツールをもとに鉄道利用時のマナーを学んでいただく紙芝居を作成し、他社・他地域での応用も可能であることが示唆された。

